

健康デザイン研究所

Research Center for Health Design

研究所の概要

1. 目的

介護・認知症予防、健康づくりや生きがいをづくりに重点的に取り組み、心身の健康を図るプロジェクトを推進します。

2. 設置期間

2023年6月1日～2028年3月31日

3. メンバー

22名（所長を除く）

4. 活動概要

日本では、少子高齢化が顕著に進行し、それに伴う人口減少も深刻な社会問題となっています。特に高齢者の増加に伴い、介護需要の拡大や認知症の増加が急務となっているため、適切な対策の構築が求められています。当研究所では、国内外の成功事例や最新の研究動向を参考にしながら、介護や認知症の予防に注力するとともに、健康づくりや生きがいをづくりの取り組みにも重点を置いています。具体的には、心身の健康を支える総合的なプロジェクトを推進し、高齢者が自立した生活を送れるよう支援することを目指します。



所長

田部井 賢一
TABEI Ken-ichi

キーワード

介護予防、認知症予防、地域住民、
生きがいをづくり、IoT、AI

令和7（2025）年度の研究活動内容及び成果

1. 活動内容

(1) 講演・イベント

東京都品川区の認知症カフェやオーラルフレイル予防講演会などで講演・イベントを実施し、啓蒙活動とともに現場からのニーズを調査した。

東京都品川区の孤立・孤独に対する重層的支援事業にて、啓蒙活動とともに現場からのニーズを調査した。

(2) 基礎研究の推進

卓球による認知症予防、オンライン音楽療法、ガンマ波サウンドを使用した音楽療法、コミュニケーションロボットによる社会的孤立の防止等、基礎研究を推進した。

(3) 健康に関わるマスメディアの構築

根拠に基づく医療を念頭においたマスメディアのあり方について、調査・分析を行なった。

2. 成果

(1) 認知症カフェやオーラルフレイル予防講演会での講演、孤立・孤独に対する重層的支援事業など地域住民への啓発活動を行なった。

(2) 査読付き論文に5本アクセプトされ、国内外の学会にて19回発表を行なった。

(1) 現場ニーズの調査・分析、具体的な研究テーマの設定（継続）

継続して、高齢者介護、認知症予防、孤立孤独に関する現場からのニーズを詳細に調査・分析を行う。これには、介護施設や医療機関、高齢者本人や家族からの意見を収集することが含まれる。得られたデータを基に、最も効果的で必要とされる介護技術や予防措置を検討する。

(2) 社会実験の設計・評価手法の検討（継続）

選定された研究テーマに基づき、社会実験の設計を行っていく。これは、新たに開発される介護方法や技術、予防措置が実際の現場でどのように機能するかを検証するためのものである。実験の設計には、目標達成の指標を定め、実験結果の客観的評価が可能な評価手法を開発することが含まれる。

(3) 社会実験の実施（継続）

設計された社会実験を実際に実施していく。これには、選ばれた介護施設やコミュニティでの試行を通じて、新しい介護手法や認知症予防措置の実効性と適用性をテストすることが含まれる。実験から得られる結果は、今後の研究方向性や政策提言の基礎として活用される。